

一般社団法人日本マスターズ水泳協会

2020 年度事業報告書

(2020 年4月1日～2021 年3月31日)

1. 事業の状況

(1) 競技規則の制定

本年度の競技規則の改定はなかった。

(2) 普及促進

競技役員講習会を東京・名古屋・大阪・福岡で実施した。参加者数は以下の通り。

東京 2月28日 37名	大阪 3月13日 36名
名古屋 3月14日 29名	福岡 3月20日 33名

(3) 競技会の開催

① 日本マスターズ水泳短水路大会

4月4日より6月7日までの期間、全国26会場で実施の予定であったが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発出を鑑み中止を決定し、3月16日に告知した。

② 第2回日本マスターズ水泳チーム対抗競技会

6月13日より14日までの期間、静岡県富士市:静岡県富士水泳場で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止を決定し、4月28日に告知した。

③ 日本マスターズ水泳選手権大会OWS競技(ジャパンマスターズ2020OWS)

9月12日に常滑りんくうビーチにて一般社団法人愛知水泳連盟主催「とこなめりんくうオープン」との共同開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止を決定し、6月28日に告知した。

④ 日本マスターズ水泳選手権大会

以下の各種目の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止を決定し、第37回大会については延期とする旨、6月22日に告知した。

・競泳	9月17日～22日	石川県金沢市:金沢プール
・AS	9月26日	同上
・水球	9月27日	同上
・飛込	9月27日	同上 ※飛込に関してはプレ大会として予定していた。

競泳については規模縮小大会の実施を検討したが、感染状況が改善せず実施に至らなかった。

⑤ 日本マスターズ水泳長距離大会

10月25日に、愛知・口論義運動公園屋内プールにて開催を予定したが、新型コロナウイルス感染状況が改善せず中止を決定し、8月18日に告知した。

⑥ 日本マスターズ水泳スプリント選手権大会(ジャパンマスターズスプリント2020)

11月28日より29日までの期間、千葉県国際総合水泳場にて開催を予定したが新型コロナウイルス感染状況を鑑み中止とし、規模を縮小した大会(ジャンボウカップ)を代替とした。

⑦ ジャンボウカップ 2020

11月28日より29日までの期間、スプリント選手権の代替大会として千葉県習志野市:千葉県国際総合水泳場および高知県高知市:高知市東部総合運動場屋内競技場の2会場を使用し開催した。

参加状況:千葉会場 1,075名 2,112種目 / 高知会場121名 269種目

この大会では新しい様式として以下の企画を実施した。

- ・年齢区分により分割した2部制とし参加者数の制限を設けた。
- ・同一大会を分散して開催するため、千葉と高知の2会場による同時進行で実施した。
- ・2会場をWeb映像により接続し、競技プログラムを合わせることで同一大会としての雰囲気醸成。テレビ朝日の協力をいただき、田中雅美さん、星奈津美さん、中村真衣理事および高橋繁浩会長による実況放送をYouTube「一般社団法人日本マスターズ水泳協会チャンネル」からライブ配信を行った。

(4) 地域大会の奨励指導

当協会でご公認するマスターズ大会のうち、3会場へ大会運営の指導を行った。

(5) 競技会および記録の公認

本年度より従来の公認競技会に加え公認記録会の制度を制定した。公認記録会はマスターズスイマーが参加できる機会を増やすために、主管団体が簡便な体制で実施できることを目的とした。

今年度は新型コロナウイルスの影響を強く受け、公認大会は例年の約13%の14大会の実施にとどまった。なお、競技会および記録会の開催を後押しするために、6月以降の開催に関しては公認料の徴収を行わないこととしたが、各競技会の再開は難しく以下の結果となった。

国内
・公認競技会 14大会
・公認記録会 16大会

海外 なし

記録公認数
・公認競技会 個人 16,980種目 リレー762種目
・公認記録会 個人 2,234種目 リレー 4種目

大会の開催促進のため2021年は公認大会開催に伴う記録公認料を徴収しないことを決定した。

(6) 国際大会の開催

- ① 第19回世界マスターズ水泳九州大会が延期され 2022 年 5 月 31 日～6 月 9 日となることが決定した。当協会は引き続き開催準備に協力した。
- ② ワールド・マスターズ・ゲームズ2021の開催準備に協力を行った。当該大会も 2022 年 5 月 22 日～29 日となることが決定した。

(7) 日本記録の公認および世界記録の公認申請

公認した記録のうち世界記録突破7個(個人 7 個)、日本新記録樹立 99 個(個人 87 個・リレー12 個件)であった。世界記録を突破した記録は(公財)日本水泳連盟を通じ国際水泳連盟(FINA)に公認申請を行った。

(8) 機関誌および刊行物

- ① 年間の公認記録を集計し「50傑ランキング」を刊行した。
- ② マスターズ水泳競泳競技規則・手引きを刊行した。

(9) 普及

新型コロナウイルス感染拡大により、活動の制限を余儀なくされたスイマー及び指導者のために Web トレーニング配信「かっぱチューブ」を実施した。実績は以下の通り。

開催回数 54 回 総参加者数 766 名 参加指導員数 26 名

(10) 国内外の水泳関係団体との連携協力

- ① 国際水泳連盟へ年間トップ 10 ランキングを集計し連携した。
- ② 公益財団法人日本水泳連盟への加盟を継続した。
- ③ 公益財団法人日本水泳連盟、一般社団法人日本スイミングクラブ協会および日本障がい者水泳協会と共同の「水泳の日2020」大阪プール(大阪府大阪市)は新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(11) 登録

チーム登録 2,865 チーム

個人登録 32,000 名であった。

2020 年登録者は 2021 年更新時の登録費を 1,000 円とすることとした。

(12) 情報システム

- ① WEB大会エントリーシステムを公認大会への利用を促進し好評を得た。
- ② 協会ホームページのマイナーチェンジを行い、会員限定ページなど会員サービスを開始した。

(13) 事務所

契約満了に伴い、事務所を千代田区神田三崎町より文京区後楽へ移転した。
この移転に合わせ、定款上の主たる事務所の所在地も変更した。

以上